

令和7年度学力向上指導改善プラン

学校教育目標	「人とつながりよりよい自己をめざす」児童の育成 ～「やさしさ」「『ふるさと』高平」～
--------	---

目指す子どもの姿 「学びいっぱい 友だちいっぱい やさしいいっぱい 高平っ子」

変容を目指す資質・能力	a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力
-------------	---

三田市立高平小学校
 学校長 中島剛
 研究主体【研究推進委員会】

前年度		継続性	4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)			2～3月		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						教員評価		評価
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	算数科の研究授業等により、1時間の授業におけるめあてとふりかえり、教材研究、学習の系統性を見通した授業の大切さが確認できた。対話を通して学びを深めようとする方向性も確認できたので、来年度も同じ研究テーマ『自ら考え、表現する高平っ子～対話によって学びを深める～』を継続していく。課題解決に向け、自己の考えをまとめる(一人学び)時間を授業に位置付け、Canva、keynote、オクリンクプラス等を用いての児童の共同学習を実施することができた。また、ミライシードを活用し、児童一人ひとりの学習の定着状況に応じた課題に取り組んだ。今後も継続して授業におけるICTの活用を進め、学習の充実を図っていく。	A	「対話」を核とした主体的・対話的で深い学びに導く授業の工夫と実践 (b c e g)	①質問調査で「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を上回る。 ②質問調査で「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を上回る。	・「学習課題」や「めあて」を明確にし、自分たちで学習を組み立てていく力を育てていくことができる授業作りをする。 ・教科書の文章を根拠にした発言を促し、内容の理解を進める。 ・問題文の意味を的確にとらえるための具体物や半具体物を用いて授業を行う。 ・問題解決型の学習の取り組み、ペア学習、グループ学習を位置づける。 ・特別活動の充実を図り、目的や意図に応じて話す機会を設定して、意欲的な学びの姿勢を高めていく。			
学習内容の定着に重点をおいた取組の推進及び基礎基本の定着	児童理解の時間を毎月1回設定し、児童の困り感や学習でのつまづきについて、担任や兵庫型学習システム推進教員、児童支援教員と共有して取り組んできた。その結果、1時間2時間の授業の学びが定着し、達成感を感じさせられるようになった。また、ひょうごがんばり学びタイムにおいても、授業の進み具合や学習におけるつまづき状況を共有し、漢字や九九といった基礎基本の力の定着が図れた。	A	基礎学力やVUCAな時代を生きていくために必要な学力向上 (a d e f)	①全国学力・学習状況調査の平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。 ②質問調査で「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定評価が全国平均を上回る。	・学習タイムを位置づけ、単元内容の定着を図るとともにミライシードを活用し、基礎基本の定着を図る。			
家庭における自学の習慣及び生活習慣の確立・向上	月ごとの生活目標に各学年の応じた具体的な行動目標を決めて、取り組むようにした。その結果、自分たちで決めた目標達成をめざし、進んで行動する児童が増えてきた。しかし、児童・保護者を対象に実施した学校アンケート「自分からあいさつをしている」「進んでそうじや整理整頓をしている」という評価では、児童と保護者の間には差が見られる。日々の生活において、挨拶や整理整頓の習慣が十分に身につけていない現状もあるので、縦割り活動の充実を図り、生活目標の具体化をより一層進めていく。今後も学校便りや学級通信、保健だよりなどを通じて、家庭での過ごし方について、各家庭の理解と協力を求めていく。	B	家庭における自学の習慣及び生活習慣の確立・向上 (c f)	①学校評価の保護者アンケートにおいて「子どもは、自ら進んで学校の宿題や調べ学習をしている。」の項目で肯定的評価が昨年度より上回る。 ②学校評価の保護者アンケートにおいて「掃除や整理整頓」「丁寧な言葉遣い」の項目で肯定的評価が昨年度より上回る。	・学年通信等を通して、家庭学習の啓発を図る。 ・保健指導・保健室通信・学校たより・HP・学級指導等を通して、生活習慣や健康に関する情報を発信し、各家庭の理解と協力を求めていく。			
学校を核とした地域連携プログラムの構築	担任と地域コーディネーターとの連携が深まり、担任の授業のねらいと学校支援ボランティアや関係機関とのつながりがよりスムーズになった。今後も地域の学習拠点(寺子屋)と連携し、自主的な補充学習を実施し、基礎基本の定着をめざして取り組む。また、地域を学習の場とした体験活動を推進し、ふるさと高平を大切に児童の育成をめざす。	B	読書活動のさらなる充実 (a c d)	①図書室の本を年間100冊以上借りる児童の割合が昨年度を上回る。 ②質問調査で「読書は好きですか」の肯定評価が全国平均以上となる。 ③学校評価の保護者アンケートの「子どもは自ら進んで読書しようとしている」の項目で昨年度を上回る。	・学校司書と連携し、各教科学習の学びと読書活動を結びつけた取組を推進する。 ・学びタイムでの読書活動や宿題として読書時間を設定し、毎月の家庭読書の日を充実させる。			
通信やHPを活用した積極的な情報発信及び地域と連携した、児童を見守る環境整備	まなびポケットの本格運用により、電子による通信や手紙の配信が行えるようになった。そのため、HPだけでなく保護者の端末に学校生活の様子をより広く伝えることができるようになった。平素からPTAとの情報交換を行い、年間を通したさまざまな活動において、協働体制を築くことができた。	B	コミュニティスクール推進による学校、家庭、地域の連携体制の充実(c e f g)	①学校地域運営協議会と連携して、学校を核とした地域連携プログラムを構築する。	・地域を学習の場とした探究的活動・体験活動の充実を図り、児童が地域の魅力に触れる機会を増やす。			
小・中における教科連携等の充実	出前授業だけでなく、外国語授業や6年生授業の参観等を行い、生活面だけでなく学習面においてもスムーズな移行が図れるように取り組んだ。その結果、児童の様子を踏まえた今後の連携協議ができた。今後も、中学校が主体となり作成した共通の学習の手引きを周知し、復習から自主的な学習へつながる家庭での学習習慣の確立をめざしていく。上野台中学校区情報教育、ICT活用能力目標系統図の徹底と正しいSNS等との付き合い方についても、研修実施を進めていく。	B	子どもの学び・支援の連続を見通した学校園所連携体制の充実 (c g)	①上野台中学校区内の4小学校との合同で実施する学習の場を年間に位置づけ開催する。 ②中学校の教員を招聘した授業を年間1回以上開催する。 ③小中連絡会を年間2回開催する。	・中学校の連携によってきた学習の手引きを活用するとともに、各学年の家庭学習の時間を示し、復習から自主的な学習へつながる家庭での学習習慣の確立をめざす。 ・全国学力・学習状況調査及び児童生徒の状況・課題について情報共有し、合同分析を行う。			

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0～4の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
 A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
 C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず